

千代田区基本構想懇談会 第2回部会（福祉と保健部会）

議事要旨

【開催概要】

- 1 開催日
令和4年9月9日（金）18時～20時00分
- 2 会場
千代田区役所4階 402・403会議室
- 3 出席状況
学識経験者1名（欠席者無し）
区民 6名（欠席者無し）
- 4 千代田区
古田政策経営部長
事務局： 夏目企画課長、沖田企画担当係長、岩森主任、落合主事、小野寺主事

【次第】

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 報告
属性別アンケート等の結果（子ども・高齢者・女性・障害等のある方）
- 4 協議
めざすべき姿について
- 5 今後の予定
- 6 閉会

【配布資料】

- ・資料1 : 属性別アンケート等の結果報告・本日の協議事項
- ・資料2 : （仮称）第4次基本構想（たたき台）
- ・別紙1 : 子ども・高齢者・女性・障害等のある方意見報告書
- ・参考資料1 : アンケート結果比較表

【議事要旨】

1 開会

2 挨拶

3 報告

(1) 属性別アンケート等の結果

◎事務局

- ・資料1に基づき、説明。

○区民

- ・女性を対象とした調査では、子どものいる女性といない女性の回答は区別しているか。

◎事務局

- ・今回の調査では女性、高齢者、障がい等のある方、子どもという属性に注目しており女性の子どもの有無についての属性調査はしていない。

4 協議

・めざすべき姿について

(1) 自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち

■多様なライフスタイルに応じて安心して子育てができています

○区民

- ・アンケート結果では、障害児を預けられる場所を増やしてほしいなどの意見が出ていたが、構想で記載されている「多様なライフスタイル」とは、親に関する多様なのか、子どもに関する多様なのかが分かりにくいいため、表現をもう少し工夫した方が良いのではないか。

◎事務局

- ・事務局として想定しているのは、子育てをする側のライフスタイルの多様性だが、子どもの多様性といった観点もあると思うので、そういった意見も頂戴したい。なお、子どもに関するめざすべき姿については、「教育と文化」部会で扱っている「すべての子どもたちの個性や意思が尊重され、すくすくと成長しています。」に記載している。

■誰一人取り残されることがなく、自分らしく、自立した生活を送ることができています

○区民

- ・アンケート結果では、「区民が支え合うまち」という回答が、千代田区の現在のイメージ、将来に望むイメージ共に低いが、「誰一人取り残されることがなく」という表現は支え合うといったイメージもあるため、「誰が誰から取り残されることがなく、支え合っていく」のか、もう少し具体的に書くと良いと思う。

○区民

- ・「誰一人取り残されることがなく」と記載されているが、取り残されている人は実際に

いるのか。その具体的な例はあるか。また、「支え合う」に関しては、千代田区として最低限の公的保障・サービスを整える必要があると思う。

○区民

- ・一人で病院の待合時間を過ごしていると孤独を感じることもある。また、妊婦の自殺者が増加していることなども踏まえると、孤独を感じている人はおり、そのような人たちにとっては、「誰一人取り残されることなく」という表現は、響くのではないかな。

○区民

- ・そのような声は表に出てきにくいいため、そのような声も拾えるようなオープンな行政であってほしいと思う。

○学識経験者

- ・「誰一人取り残されることなく」という表現は、物理的に孤独感を感じるケースと時間軸の中で孤独感を感じるケースがあると思う。普段困っていないような人であっても、取り残されたように感じる瞬間はあるだろう。そのような場合に、公的サービスだけではなく、相談できる相手があり、支え合えるような状況があることは、理想なのだろう。

○区民

- ・自分が取り残されていると感じていない人には、この文章は分かりにくいかもしれないため、具体的に誰のことを指しているか記載すると良いかもしれない。

○区民

- ・しかし、例えばパラリンピックのように障害があるかどうかで人を区別することは良くないと思う。区別することなく、同じ社会でお互いを支え合う事が理想的な社会の在り方だと思う。

○区民

- ・確かに私もそう思うが、マイノリティといった立場にない人にとっては、「取り残される」という意味が伝わりにくく、「めざすべき姿」がイメージしにくいと思う。構想の中で、取り残されている人たちを明示することで、取り残されているマイノリティが社会にいることを気付かせることが大事だと思う。最終的に平等な社会を目指すためには、まずはマイノリティの「特別扱い」をするような段階を踏む必要があると思う。

○学識経験者

- ・様々な考え方があって良いと思う。
- ・同じ社会にいる全員に平等な機会を公正に提供するには、それぞれの立場に応じた配慮が必要である。例えば障がい等ある方へのアンケート結果では、駅のインフラ整備を充実してほしいといった話もあったが、そのような障壁が取り除かれれば、平等な社会に近づくのではないかな。

○区民

- ・「誰一人取り残されることなく」よりも「すべての人」という言葉のほうが分かりやすい。ただ、敢えて「誰一人取り残されることなく」と記載することで、困っている

ような人への配慮を明確にできるのであれば、この表現でも良いと思う。

○区民

- ・自分が社会から取り残されていると感じている方のために、「誰一人取り残されない」という表現を使った方が良い。

○区民

- ・「誰一人取り残されることなく」という表現は、SDGsから引用された言葉なのではないか。私は障害者となった立場であり、社会に取り残されていると感じることがあるので、この言葉は意味があり良い表現だと思う。「誰一人取り残されることなく」という言葉を、千代田区として噛み砕いて使用し、障害者に対する意識が高まっていけば、ありがたいと思う。

○区民

- ・「自分らしく自立した生活」とあるが、アンケート結果とどのように対応しているのか。逆に自分らしく自立できていない生活とはどのような生活なのだろうか。

○区民

- ・例えば、親の介護で自由に友達と遊ぶことや学校に行くことなどができないヤングケアラーは、それに該当するかもしれない。やむを得ない事情で自分のやりたいことや本来やるべきことをできていない人たちは該当するのではないか。

○区民

- ・引きこもりなども該当するかもしれない。また、「誰一人取り残されることがなく」で対象となる人でも、後半の「自分らしく、自立した生活を送ることができています」では対象とならない人もいると思うので、前半と後半の対象を一致させると良いのではないか。

○学識経験者

- ・ヤングケアラーについては、自分がヤングケアラーである自覚がない場合や、親の介護をしたくないとも思っていない場合もあるが、自分の時間を確保できないことに悩みを抱えている調査結果が出ている。相談ができる相手がいることが重要だろう。また、幼い子どもについては、自分が置かれた環境が全てであり、そのような環境下でのヤングケアラーは、自分が特別な状況にあり「遊ぶ権利」や「教育を受ける権利」が保障されていないことに気付かず、「子どもらしく」、「自分らしく」といった事自体が分からない子も多くいると思う。「誰一人取り残されることなく」という言葉は、自分が取り残されているという自覚がある人、無い人どちらも内包すると捉えると良いのではないか。

○区民

- ・港区では、マンションの空きスペースを活用して、看護ステーションを誘致した民間の事例がある。そのような取組みを行政が民間に紹介をすることや、助成金を支出するなどの支援をしてほしい。

○学識経験者

- ・そのような取組みは、官民連携や助成金を支出するなどの方策が取れるだろう。人々の暮らしの中に看護ステーションなどを取り込むことで、気軽に相談ができるよう

になるだろう。他には、薬局の中で薬剤師と相談のできるコーナーを設置している事例もあると伺っている。

■衛生的な環境のもと、いきいきと健康に暮らしています

○区民

- ・「衛生的」という言葉は少し学問的な印象があるので、例えば「清潔で快適」という表現のほうが分かりやすいのではないかと。

○区民

- ・ゴキブリの対策についてもここに入ると思う。

○区民

- ・今年は、ネズミもよく見かけるようになった。

○区民

- ・このような問題が出ると区民は不快な思いをしますので、清潔で快適に暮らせることが重要だと思う。

○学識経験者

- ・高齢化が進んだ社会では、自分で衛生的な環境を維持できない方も増えるだろう。そういった方への支援という視点も重要である。

○区民

- ・千代田区は公衆トイレが清潔で、衛生的である。

○学識経験者

- ・公衆トイレが清潔、衛生的であることは、安全・安心にも関連するだろう。

○区民

- ・「いきいきと健康に」については、区のスポーツセンターをより利用しやすいようにすると良いと思う。スポーツセンターは利用しにくいイメージがある。

○区民

- ・区内の公園には遊ぶ遊具だけではなく、運動用の遊具なども設置してある。また、ラジオ体操や皇居ランをしている人もおり、既にいきいきと健康に暮らしているイメージがある。

○学識経験者

- ・歩いているだけで健康になるようなまちづくり（ウォークブルシティ）という考え方がある。運動に興味のない人でも自然と歩きたく、動きたくなるようなまちづくりも大切だろう。他自治体では、公共バスの運賃箱の位置、バスのルート、停留所の位置といった視点から、健康づくりを促進している事例もある。さらには、バスのICカードと公共施設の入館カードを連携させ、運行ルートから区民の活動傾向の分析に繋げることや、ポイントシステムを導入することなどで、運動に興味を持っていない人も自然と運動ができるよう取り込む事例がある。健康づくりは、まちづくりと連動しながら検討することが必要になるだろう。

○区民

- ・私もまちづくりという言葉が好きで、例えば「いきいきと健康に暮らせるまちづく

りをする」というような表現にすると良いかもしれない。

(2) 集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち

■人とのつながりが感じられ、支え合うことができます

○区民

- ・以前の部会の議論では、お祭りに参加したいと思っている方が多いように感じた。自分から「支えにいく」といったニュアンスも表現できても良いのではないか。

○区民

- ・アンケート結果では、「区民が支え合うまち」や「行政が身近なまち」といった千代田区のイメージは低い。だからこそ、「人とのつながりが感じられ」という表現は非常に重要だろう。それは、「誰一人取り残されない」というめざすべき姿の実現にもつながると思う。また、この文章に、行政がより関与していくような表現が入ると、「行政が身近なまち」という千代田区のイメージをもっと上げることができるのではないか。

○区民

- ・この文章に地域の催しなどの言及もあるといいと思う。

○区民

- ・小学生から千代田区に在住しているが、区内在住者との繋がりは薄いと感じているが、同じ学校に通っていた友人やその親との繋がりはあると感じている。そのため、学校などの既存コミュニティを活用して、そのコミュニティに属していない人も楽しめるようなイベントがあると良いのではないか。

○区民

- ・近年、池袋では公園のリニューアルをして、子連れの家族が集えるような公園ができた。アフターコロナの社会でこそ、人々が集える場所を作ることが重要であり、賑わいを取り戻す必要があると思う。

○学識経験者

- ・「まちづくり」や「人が集う」ことは、「健康」との結びつきがあるのだろう。

○区民

- ・新住民も気軽にお祭りなどに参加ができるようなプラットフォームが必要だと考える。また、ボランティアなど出会いのきっかけを行政が積極的に周知し、少しずつ人との繋がりを形成できると良い。また、それは、単発的な取り組みではなく、継続的に取り組めると良い。

○区民

- ・子どもがいないと、千代田区外から区民となった人たちは、地域のイベントに参加しにくいと思う。子ども、子育て以外に繋がれるようなルートがあったら良いと思う。

◎事務局

- ・団体関係者ヒアリングで、子育てのコミュニティでは、子どもの進路（私立、公立）が異なると疎遠になってしまうことがあると伺ったが、実際に進路の違いで疎遠に

なったことを感じたことはあるか。

○区民

- ・個人的には、私立と公立という進路の違いで、疎遠になったという感覚はなく、単に通う学校が異なることで一緒に過ごす時間が減った程度である。関係が疎遠になるかどうかについては、中学校受験をするか否かで変わってくるのかもしれない。千代田区の小学生の場合、大半が中学校受験をする。

5 今後の予定

6 閉会